

項目	内 容
1. 国内	(1) 生産・処理動向調査(一社)日本食鳥業協会令和5年12月末実施)によると、12月の推計実績は処理羽数68,197千羽(前年比101.5%)、処理重量207.2千t(同100.7%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.4%下方修正、処理重量は0.2%下方修正された。前月予測は下回ったものの、前年以上の成績となり、育成は概ね順調であったことが伺える。産地の話では、九州産地の鶏の検査廃棄が若干目立ったとの声もあるが、大腸菌症などの病気もかなり抑えられていて、12月の生産成績は好調であったとの声が多い。 (2) 1月の計画は処理羽数は近畿・中国・四国地区、北部九州地区で前年を下回る予想となっており、処理重量は関東地区、近畿・中国・四国地区、北部九州地区が前年を下回る予想となっている。2月13日時点で、8県9例(肉用鶏2例)、家きんより高病原性鳥インフルエンザの発生が報告されている。このまま拡大せず、終息に向かうことを期待したい。 工場の人員不足については外国人技能実習生が来日するようになったことで、少しずつ解消されており、加工品(切り身・手羽中・ツ製・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復している。
供給	(1) 財務省1月30日公表の貿易統計によると令和5年12月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+11.8千tの51.0千tで、国別ではブラジルが前月+10.9千tの33.8千tとなり、タイが+1.1千tの16.1千tとなり、ブラジル・タイともに増加となった。前年同月の実績に対しては+6.7千tとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、ブラジルの回復やタイ・アメリカからの輸入も引き続き堅調に推移することが予想されることから、1月が+5.8千t(前年比116.8%)、2月は+59.8千t(前年比126.9%)となっている。ブラジルは12月から高病原性鳥インフルエンザによる輸入停止措置が解除になったことで増加しており、タイ・アメリカは順調に入荷している。今後の国産鶏肉への影響を注視したい。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲2.3千tの44.3千tで、国別では中国が▲1.9千t、タイが▲0.4千tとなった。前年同月の実績に対しては+3.9千tとなり、前月比は減少したが前年比は上回る結果となった。タイの生産は引き続き安定しているが、12月実績は若干の減少となった。価格については依然として高騰している状況である。外食についてはインバウンド需要等で回復しており、中食・総菜向け等の引き合いも安定的に継続している状況である。 (3) 財務省が1月30日に公表した貿易統計によると12月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より12.4%下降し、鶏肉調整品は前年同月より2.9%上昇した。国別ではブラジル産の価格が308円/kg(前月比17円安)、タイ産が394円/kg(同23円安)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジル・タイともに下降した状況である。ブラジル産は12月実績は下げ基調となっており、国内在庫が潤沢なことや先々の入荷も回復する見込みとなるため、国内市場価格は下降傾向となっている。タイ産についても国内市場価格は下げ基調となっており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。
1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年12月の生鮮肉消費(購入)は数量4,977g(前年比105.2%)、金額683円(同101.1.9%)と、数量・金額とも前年を上回った。鶏肉は数量1,885g(同109.0%)・金額1,950円(同105.2%)・単価103.5円/100g(前年同月▲3.7円)と、数量・金額とも前年を上回る結果となった。調理食品が金額16,555円(同103.0%)、外食が16,149円(同112.8%)となっている。畜産の購入量は牛・豚・鳥とも前年を上回る結果となった。調理食品においては光熱費の高騰による調理敏速が働き順調に推移している。外食においては、イベント開催の回復や、入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要あり、回復傾向にあると考えられる。
2. 量販・卸	(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年12月の食品売上高は全店ベースで前年比104.4%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同103.5%、既存店ベースは同102.6%となった。また、畜産部門の売上高は約1,395億円で全店ベース同99.7%、既存店ベース同99.2%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、12月は例年に比べ気温が高かったため鍋関連需要が低迷、畜産部門は相場高の影響で前年を下回る結果となった。野菜部門は、光熱費の高騰による調理敏速を追い風におせちやオードブル等の予約販売が好調で前年を上回った。 畜産部門においては、精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉・鶏肉に需要のシフトが続いている。牛肉は、年末商戦ではしゃぶしゃぶ、すき焼き用の和牛は売り上げを確保できたが、それ以外は苦戦。豚肉は国産、輸入ともに高値の影響を受け伸び悩み。相場の安定している鶏肉は好調。ハムやソーセージなどの加工肉は動きが鈍い。節約志向の高まりにより、買上点数は減少傾向が続いているとのこと。
3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年12月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.9%の4.3千tとなった。うち国内品は同90.3%の3.3千tと前年を下回り、輸入品については同159.7%の1.0千tと前年を上回った。
1. 令和5年12月	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推定期末在庫では国産33.6千t(前年比136.1%・前月差+2.7千t)、輸入品115.7千t(同93.1%・同▲4.3千t)と合計で149.2千t(同100.3%・同▲1.6千t)となった。
2. 見通し	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、12月の出荷量は国産152.3千t(前年比100.3%・前月差+7.0千t)、輸入品55.3千t(同110.5%・同+5.1千t)と合計で207.6千t(同102.8%・同+12.2千t)となった。1月以降の国産在庫については、年末、解凍品として冷凍モモ肉が消化されなかったこともあり前年を上回ると予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)では、入荷量は、ブラジルの高病原性鳥インフルエンザの影響が解消されたことや、タイ産ムネ肉の輸入量が増加すると見込まれることから、1月、2月とも、前年を大幅に上回る予測となっている。出荷量は1月、2月ともわずかに上回る予測であることから、期末在庫は、1月はやや、2月はかなり程度、前年を上回ると予測する。
1. 令和6年1月動向	(1) 令和6年1月の月平均相場は、モモ肉701円/kg(前月差+10円)・ムネ肉377円/kg(同±0円)正肉合計で1,078円/2kgと前月を10円上回り、前年同月を149円下回った。モモ肉相場は月初706円、月末は690円となり(昨年は月初805円、月末806円)、前年の相場を下回った。 生産においては、前年に比べ高病原性鳥インフルエンザの発生も抑えられていて、比較的順調に推移している。1月当初は工場稼働の影響によりタイに推移したが、成人の目を境に生産も追い付き、モモ肉、ムネ肉とも余剰感が出てきた。ムネ肉においては、加工原料として冷凍品の引き合いはあるが、価格が下がってきている。安価な手羽もとの、生鮮品・冷凍品ともに順調に推移している。 相場はモモ肉は700円台を維持し、12月も引き続き高水準を維持した。
2. 見通し	(1) 2月の生産量は、前年を上回る計画である。今年度は暖冬の影響が確認された。前年度の同期間では25県76例発生しており、抑えられてはいる。今後は、春に向けて暖かくなっていくことから、終息に向かうことを期待したい。今年度は暖冬のため、鶏肉の売れが芳しくない。モモ肉においては相場高のため訴求用として輸入解凍品を販売している店舗も目立つ。安価なムネ肉・手羽もとの特売も多い。冷凍ムネ肉の価格は下がっているが、引き合いは強い。 モモ肉相場は下げの月平均680円、ムネ肉相場はもちあいの月平均370円と予測する。 (2) 2月に入る、モモ肉・ムネ肉とも売れは落ち着き余剰感が出てきた。12月の家計調査では、牛・豚・鶏とも前年の数量は上回ったが、価格は前年を下回った。節約志向の働きにより、安価な商品が売れていると思われる。量販店では、輸入モモ肉(解凍品)を販売している店舗も見られ、今後、高病原性鳥インフルエンザの影響で輸入量が少なかったブラジル産モモ肉が大量に安い価格で入ってくるため、テールミートへの拡大が懸念される。 節約志向により、牛肉から豚肉、鶏肉へ需要のシフトが続いて、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は今後も底堅く推移すると思われる。前年には及ばないが、鶏肉相場は引き続き高水準で推移していくと思われる。

令和6年2月13日 更新

全農チキンフーズ㈱

実績

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R5年累計(推計)		R5年12月推計実績		R6年1月計画		R6年2月計画		R6年3月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	69,640	101.9%	67,340	102.6%	62,876	103.6%	64,073	99.8%
処理羽数	743,734	100.9%	68,197	101.5%	61,168	101.8%	60,673	104.5%	64,723	99.8%
処理重量	2,240.5	101.0%	207.2	100.7%	184.0	100.9%	182.8	104.4%	194.4	98.4%

※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R5年7月	46.7	45.6	102.3	39.5	43.8	90.1	86.2	89.4	96.3	54.2	45.8
R5年8月	56.0	47.4	118.1	40.4	47.8	84.5	96.3	95.2	101.2	58.1	41.9
R5年9月	48.4	46.8	103.4	40.8	44.3	92.2	89.2	91.0	98.0	54.2	45.8
R5年10月	47.8	53.9	88.6	44.4	44.1	100.6	92.2	98.1	94.0	51.9	48.1
R5年11月	39.2	49.8	78.7	46.6	43.1	108.2	85.8	92.9	92.4	45.7	54.3
R5年12月	51.0	44.3	115.1	44.3	40.4	109.6	95.3	84.7	112.5	53.5	46.5

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

相場(年別・暦年)

単位:円

履歴	数量			金額			H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比								
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7	621	626	595	585	614	641	662	730
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8	255	315	282	243	269	313	348	395
R5年7月	1,361	1,439	94.6	1,422	1,345	105.7	876	941	877	828	883	954	1,010	1,125
R5年8月	1,363	1,372	99.3	1,411	1,309	107.8								
R5年9月	1,424	1,492	95.4	1,487	1,386	107.3								
R5年10月	1,502	1,574	95.4	1,587	1,534	103.5								
R5年11月	1,508	1,495	100.9	1,569	1,505	104.3								
R5年12月	1,885	1,729	109.0	1,950	1,854	105.2								

※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年7月	30.6	28.9	106.0	129.6	121.1	107.0	160.2	150.0	106.8
R5年8月	32.0	28.5	112.3	133.3	121.2	110.0	165.3	149.7	110.4
R5年9月	30.0	25.8	116.3	132.5	121.2	109.3	162.5	147.1	110.5
R5年10月	29.8	25.2	118.0	130.9	127.5	102.7	160.7	152.7	105.2
R5年11月	30.9	23.4	132.1	120.0	129.9	92.3	150.8	153.3	98.4
R5年12月	33.6	24.6	136.1	115.7	124.2	93.1	149.2	148.8	100.3

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R5年10月	649	697	93.1	369	376	98.1	1,018	1,073	94.9
R5年11月	673	729	92.3	374	396	94.4	1,047	1,125	93.1
R5年12月	691	773	89.4	377	417	90.4	1,068	1,190	89.7
R6年1月	701	805	87.1	377	422	89.3	1,078	1,227	87.9
R6年2月	(680)	800	85.0	(370)	414	89.4	(1,050)	1,214	86.5
R6年3月	(660)	799	82.6	(370)	411	90.0	(1,030)	1,210	85.1

※()は見通し